

リングム(リング)に関するババの御言葉

リングムには「シンボル」という意味があります。それは三グナ〔鈍性・激性・浄性という三属性〕の活動の結果である創造のシンボルであり、創造世界に遍満して意味と価値を与えているブラフマン（至高の实在）のシンボルです。リングムを礼拝する時、あなたはこのシンボルが表している意味への信心を持って礼拝すべきです。

1959年2月7日
Sathya Sai Speaks Vol.1 C19

シヴァ神の三つの目は過去、現在、未来を明かす目です。この三つの目をすべて持っているのはシヴァ神だけです。シヴァ神が身に着けている象の皮は、シヴァ神の恩寵が破壊する原始的な旧来の獣性の痕跡の象徴です。シヴァ神はそうした獣性の力を失わせ、害のないものにします。実に、言うなれば、シヴァ神は獣性を引き裂いてその皮をはぎ、無力にするのです。シヴァ神の四つの顔は、平安、獰猛さ、吉兆、決意を象徴しています。リングムを礼拝している時、このようにしてシヴァ神の持つ多くの属性の内的意味を理解しなさい。この日、以上のようにしてシヴァ神を瞑想しなさい。そうすれば、あなたは長いことわずかに残っている迷妄を取り除くことができるでしょう。

1959年2月7日
Sathya Sai Speaks Vol.1 C19

ちょうどオームが言葉における神の象徴であるのと同じように、リングムは至高神の象徴的姿です。すべてのものはマーヤー（幻）であり、それを理解するためには、あなたはマーヤーに対処しなければなりません。そうしなければ、マーヤー シャクティ（幻力）を理解することはできません。卵の中に命が内在しているのと同じく、神は全世界に内在しています。卵のどの部分にもニワトリは存在しています。それと同じように、神は世界のどの部分にも存在しているのです。

1959年2月7日
Sathya Sai Speaks Vol.1 C19

「サダーシヴァリングム」は、つねに吉祥なるアートマを象徴しています。それはあらゆる二元的様相と概念を超越し、すべての存在、すべての場所に内在しています。それは時間によって無にされることはありません。それは、サダー（つねに）シヴァム（有益で吉祥）です。

1961年10月17日
Sathya Sai Speaks Vol.11 C16

「サダーシヴァリングム」とは、つねにシヴァ神の姿を備えている人のことを指しています。その人は、ここであろうとどこであろうと、昼夜を問わず、楽しいときも辛いときも、シヴァム——幸福、吉祥、優美——です。至福（アーナンダム）が彼の呼吸であり、彼の原動力であり、彼の振る舞いであり、彼の内と外で表現されるものです。「サダー」——つねに、そして永遠に。「シヴァム」——吉祥。ここには、この国の工場で製造され

た貴重な紙を誤用している専門家や学者たちが耽っているような議論や知識の対立、競争の付け入る隙はありません。意識の中に「サダーシヴァリングム」を安置しなさい。そうすれば、内在する神の恩寵によって、少しずつ、すべての物事が明らかになっていくでしょう。

1961年10月20日
Sathya Sai Speaks Vol.11 C17

満月から14日目の最終日に、シヴァと共に過ごして霊的努力の頂点に達しなさい。そうすれば、成功はあなたのものであります。そのため、すべてのチャトゥルダシー（満月から4日）はシヴァラートリ（シヴァの夜）と呼ばれているのです。マーガ月のチャトゥルダシーは、マハーシヴァラートリと呼ばれています。この日はシヴァ神に特別な専心を捧げる日であり、あなた方の多くが、ここや他の場所でシヴァ神に祈ります。それゆえ、その全員が恩寵とリンゴードバヴァ（リングムの現出）の偉大な瞬間の至福を受け取れるよう、私の中からリングが生み出されるのです。

1962年3月4日
Sathya Sai Speaks Vol.2 C31
(サイラムニュース 175号)

今日私から生じたアートマ リンガ、ジョーティ リンガ〔炎を有するリングム〕を黙想しなさい。リングはあなた方一人ひとりの中にあるということを確認しなさい。なぜなら、それはシャヴァ（肉体の鞘）の中に住むシヴァ神の印だからです。アートマ リンガのヴィジョンをあなたの内の意識に入れて、それを神の高みに上昇させなさい。

1965年3月1日午前
Sathya Sai Speaks Vol.5 C8

リングはあなた方一人ひとりの中にあるということを確認しなさい。なぜなら、それはシャヴァ（肉体の鞘）の中に住むシヴァ神の印だからです。

1965年3月1日午前
Sathya Sai Speaks Vol.5 C8

マハーシヴァラートリは、マヘーシュワラ〔大いなる主／シヴァ神〕が霊性の求道者たちのためにリングの姿をとる日です。

1965年3月1日午後
Sathya Sai Speaks Vol.5 C9

リングムは「普遍なるもの」の象徴であり、個々のすべてがそこへ帰融し、個々のすべてがそこから出現します。リングは実在の真の姿、スワ スワルーパです。

A Glossary of Sanskrit Words Gleaned from Sai Literature p203

先ほど、ガンディコータ・シャーストリ〔サイ ガーヤトリー マントラを世に伝えた学

者]は、私が彼に、これは私の姿だと言って、プージャー〔供養礼拝〕をするようにとシヴァリングアを与えてくれた、と話しました。私はそうしたことを広く一般に知らせるのは好みません。私が望むのは、私の教えとメッセージを広く一般に知らせることです。私が望むのは、原理を広く一般に知らせること（タットワ プラチャーラ）であり、個人を広く一般に知らせること（ヴィヤクティ プラチャーラ）ではありません。

1966年10月20日

Sathya Sai Speaks Vol.6 C33

リングアは、まさに「始まりのないもの」、「終わりのないもの」、「無限なるもの」の象徴であり、印（しるし）であり、例証です。なぜなら、リングアには、腕も脚も、顔も、足もなく、前も後ろもなく、始まりも終わりもないからです。リングアの形状は、人がニラーカーラ（無形）なるものを想像したような形をしています。実際、「リングア」には、「リーヤテー」（すべての名と姿が帰融するところ）と「ガムヤテー」（すべての名と姿が成就を果たすために向かうところ）という意味があります。リングアは、遍在者、全知者、全能者に最も相応しい象徴です。万物はそこに包含されており、すべてのものはそこから始まります。リングム〔リングア〕からジャンガム（全世界）が生じ、ジャンガムからサンガム（社会／連結／活動）が生じます。そして、サンガムのおかげで、人はリングム（属性を持たないアートマ）を悟るのです。このようにして、「始まりのないもの」から「始まりのないもの」へと繋がって、円が完成するのです！これが、「リンゴードバヴァム」（リングムの現出）が説いている教訓です。アートマの住むリンガーシャリーラ（肉体）は、この特別な滞在〔この世にいる間〕にまとう衣服にすぎません！アートマの実体は永遠不滅ですが、アートマは数々の衣服をまとっているのです！

1971年2月23日

Sathya Sai Speaks Vol.11 C13

リングムは、始まりも終わりもないもの、つまり、無限なるものの象徴です。リングムの形はニラーカーラ（無形なるもの）であるかのようです。「リングア」という言葉は「リン」と「ガ」という二つの音節からできています。「リン」は「すべてのものが融合していく先」（リヤティック）という意味です。「ガ」は「すべてのものが向かう先」（ガムヤティック）という意味です。

Gems of Wisdom p367

リングムは、全能、全知、遍在なる神に最もふさわしい象徴です。

Gems of Wisdom p367

リーラテー ガムヤテー イティ リンガハ

（すべてが融合する先、すべてが進んで行く先、それがリングなり）

1971年5月14日

Sathya Sai Speaks Vol.11 C24

（サイラム ニュース 138号）

リングムは神の姿であり、無形なるものから有形なるものが生じたものです。他のあらゆる形状は、すべてリングの形状に包含されています。プラクリティ、すなわち現象界がその土台です。それは、その神の顕れの中に神が宿っていることを表しています。そして、それは神の御業、神の潜在力、神のシャクティ（力）の具体的な表示です。それゆえ、主なる神は「シヴァ シャクティ アートマカ スワルーパム」、すなわち「シヴァとシャクティとなった至高者」と言われています。シヴァは潜在しているものであり、シャクティははっきりと目に見えるものです。

1972年10月25日
Sathya Sai Speaks Vol.11 C49

「リングム」という語はサンスクリットの「リ」から来ています。「リ」には「リーヤテー」すなわち「帰融」という意味があります。リングムはすべての姿が帰融する姿です。シヴァは生き物たちに世界で最も重要で好ましい贈り物を授ける神です。それは終焉、すなわち死を超越することであり、それは人がそれを求めて努力すべきもの、すなわち、シヴァが与えることのできる終焉です。

1973年3月5日
Sathya Sai Speaks Vol.12 C4

「ラー」はヴィシュヌ神に捧げられるマントラ（「オーム ナモー ナーラーヤナーヤ」）の命の音であり、「マ」はシヴァ神に捧げられるマントラ（「オーム ナマ シヴァーヤ」）の命の音です。その二つの音がラーマとなりました。ちょうど、リングが、そこからすべての姿が顕現する一なるもの、神の意志の最初の顕れを象徴する原初の姿かたちであるのと同じように、一なるものがヴィシュヌとシヴァになりました。

1974年2月21日
Sathya Sai Speaks Vol.12 C28
(サイラムニュース 167号)

リングムとは、始まりも終わりもなく、そこに向かってあらゆる存在が動き、その中にあらゆる存在が融合するものです。

Sathyam Shivam Sundaram Part IV p44

これは、空間・時間・因果の連続体である宇宙空間の有形のシンボルです。

Sathyam Shivam Sundaram Part IV p44

リングムは人のハートの中心核そのものであり、至福と、力と、光明の、唯一の提供者です。リングムがこの三つをあなたに授けてくれるよう、内に向けられた目を養いなさい。

1974年7月4日
Sathya Sai Speaks Vol.12 C42
(サイラムニュース 142号)

普遍の絶対実在であるブラフマンから顕現したリングムは、すなわち宇宙です。それは、まず願望を抱き、後に理想の姿をとり、最後に意を受け入れます。宇宙はシヴァ神の意志が具現化したものです。あなた方も同じです。シヴァ神によって意志され、シヴァ神の手によって、シヴァ神自身から作られているのです。

Sathyam Shivam Sundaram Part IV p50

リングムはすべての属性と名前の精髓です。それは形なきものが形をとったもの、名を持たぬものが名を持ったものであり、神から最初に現れ出たものです。

Sathyam Shivam Sundaram Part IV p57

シヴァ神とヴィシュヌ神を違うものと見なしてはなりません。作家のアンナマーチャールヤ（13世紀のテルグの音楽家でヴェンカテーシュワラ神の偉大な帰依者）は、こう明言しました。「リング！ リンガ！ シヴァリング！ と唱えているとき、おお、人よ、ランガ（パーンドゥランガ／ヴィシュヌ神）を忘れてはならない！ 二神は一つである」乗り物が雄牛（シヴァ神の乗り物である聖牛ナンディ）であろうと驚（ヴィシュヌ神の乗り物である聖鳥ガルダ）であろうと、主なる神は同一です。

1999年2月23日

Sathya Sai Speaks Vol.23 C4

(サイラムニュース 154号)

ヒランニャガルバ リンガは純粹意識の象徴です。ヒランニャガルバ リンガは遍在です。

2004年9月4日

Sathya Sai Speaks Vol.40 C17

(サイラムニュース 133号)

黄色はブラフマンの原理を象徴しています。今日、私は黄色いリング（リングム）を出したいと思っていました。しかし、私がホールに入ってくる時、学生全員、そして、帰依者やアシュラムの住人たちが、「スワミ！ リンガをお出しになる必要はありません。私たちはスワミが被る苦しみを見ることに耐えられません。私たちはスワミの至福に満ちた御姿だけが見たいのです」と私に祈りました。私のハートは完全に純粹です。何であれ私が意志したことは起こります。世俗的な人々のハートはいつも定まっていません。しかし、サイのハートは定まっており、不変です。

2008年3月6日

Sanathana Sarathi April 2008